

## 事業計画書

事業名	街中だがしや楽校 2018in ぬまづ
場所	沼津市仲見世商店街・新仲見世商店街地内
実施予定期間	平成 29 年 7 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 20 日
日程	実施項目・作業項目
	<p><b>●前回を踏まえて今回の試み</b> 初めての沼津開催にも関わらず、付き添いの大人も含め約 3000 人の来街者があり、次回も開催して欲しいとの声を多くいただいた。ただ、お仕事選びのキッズハローワークでは、予想以上の参加者の為、スムーズな運営が出来ず、今回はキッズハローワークを 2 箇所設置し分散させるなどの改善を考えている。また、前回の仲見世・新仲見世の協力実店舗を 28 店舗からさらに増やし、参加から参画してもらえるように準備段階から巻き込んでいく。</p> <p>1 回目の事業で毎回使用できる横断幕やのぼり、スタッフジャンパー等を購入したため、2 回目の事業費が削減でき、助成金の申請も減らすことができた。今後も継続できるように工夫をしていく。</p> <p><b>●事業内容</b> 「お手伝い（体験）～お駄賃（報酬）～駄菓子屋での購入」という、かつてあった駄菓子屋を取り巻く環境を再現。</p> <p>◎「キッズハローワーク」 仲見世、新仲見世商店街の実店舗、外部出店ブース、なかみせステージなどに募集する仕事を記載した求人票を掲示。子ども達が仕事を選ぶ。今回は 2 箇所設置予定（混みすぎた為）</p> <p>◎「仲見世、新仲見世商店街の実店舗、外部出店ブースでのお仕事体験」 15～20 分を 1 クールとしてお仕事体験。仕事内容は店舗によって異なり、掃除、呼びこみ、POP づくり、接客などを行う。仕事完了時にお店の人からお駄賃（報酬）として仮想通貨「ぬまづダラ」をもらう。</p> <p>◎「ワークショップ」 出展者の指導を受けながらものづくりやアート、スポーツなどの体験をする。終了時に「ぬまづダラ」をもらう。</p> <p>◎「なかみせステージ」 音楽や子どもダンス、よさこいなどを上演。ステージまわりの仕事（司会や拍手係）を体験することで「ぬまづダラ」をもらう。</p> <p>◎「だがしやマーケット」 新仲見世商店街の空き店舗を活用して、1 日だけの子どものための駄菓子屋をオープン。お仕事や体験をしてもらったお駄賃「ぬまづダラ」で駄菓子を購入する。</p> <p>◎「働く車」コーナー 消防車や工事現場の重機など、普段子ども達が触れることができない車等を展示し、実際に乗ったり、触ったり、そこで働いている人とふれあってもらおう。</p> <p>◎「あきんど体験」今回の試み！ 当日体験だけではなく、予約制の事前お仕事（DM 作りや商品仕入など）体験。</p> <p><b>●実施場所</b> ・沼津仲見世・新仲見世商店街の実店舗、商店街の空き店舗、仲見世商店街コミナード</p> <p><b>●参加対象</b> ・沼津市及び近隣市町の未就学児～小学生。 沼津市・三島市・長泉町・清水町の各教育委員会の後援を頂き、各小学校にチラシを配布する。</p> <p><b>●人員配置(当日スタッフ)・役割分担</b> ・本部 4 人、既存店出店・外部出店担当・ワークショップ担当 8 名、警備 4 名(外部)、ボランティアスタッフ担当 1 名(高校生・専門学校等約 15 名)、記録係 1 名、キッズハローワーク担当 8 名、ステージ担当 3 名、駐車場係り 2 名だがしやマーケット担当 5 名</p> <p><b>●開催までのスケジュール</b> 2017 年 8 月～2018 年 3 月 実行委員会・役員ミーティング開催(月 1 回) 8 月 26 日・27 日 三島のだがしや楽校 前日準備・当日お手伝い 9 月 10 月 後援依頼、協賛金、出店、ワークショップ等募集、各担当打ち合わせ 11 月 12 月 ポスター・チラシ作成。広報ぬまづ掲載依頼。商店街との会合 2018 年 1 月 2 月 チラシ全校配布(1 月頃)、当日用チラシ作成、最終調整 3 月 3 日・4 日 前日準備会場設営、開催</p>

事業効果	<p>第1回開催において約3000人の来場があった。受け入れ態勢を整備することで参加人数の増加が見込まれ、商店街が新たな客層を獲得する契機とし、中心市街地の今後の活性化に結び付けられる。</p> <p>実店舗で行なうことでプロの現場を体験し、子ども達が将来の仕事に対する意識付けをすることができる。</p> <p>商店街各店舗の協力が欠かせず、また学生ボランティアや各種団体との協働をすることで地域内の連携につながる。</p>
公益性	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載してください。</p> <p>子ども達に商品の価値や働くことの意義、楽しさを、大変さを実感してもらい、子ども達の創造性や生きる力を育む。</p>
発展性	<p>※他の住民や地域との連携や、どのような波及効果が見込めるのか記載してください。</p> <p>第1回開催の成功により、商店街店舗から良い評価をされ、協力店舗の増加が見込まれる。また、各店で仕事内容をさらに精査し、より充実した体験を提供していく。</p>
地域性	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載してください。</p> <p>地元の高校や専門学校の生徒、地域で活動している子育てママの団体、三島のだがしや楽校運営協議会等と連携をはかり事業を行う。</p> <p>地域資源である沼津垣、戸田塩、地域人財であるスポーツや芸能、まちの識者等を活用したワークショップを行う。</p> <p>中心市街地の商店街で子どもたちにお仕事体験をしてもらうことによって、商店街組合の方々との連携が図られ、地域の大人が子どもを育てる環境がうまれる。</p> <p>また、三島のだがしや楽校と連携することにより、広域的な事業を展開していく。</p>
必要性	<p>※事業を実施する意義や、財政的に支援を要する理由について記載してください。</p> <p>前回の助成金をいただき、横断幕やスタッフジャンパーなど継続していくために必要な備品をある程度そろえることができた。今後、さらに事業を拡大するために備品等の更なる充実が必要。</p>
先導性	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載してください。</p> <p>これまで外部団体が商店街を利用して行うイベントでは、ややもすれば商店街は場所貸しにとどまっていたが、本事業においては各店舗が子どもの活動の場となり、店舗がより積極的、主体的に関わっていくことが求められる。</p>
継続性	<p>※助成事業終了後に、どのように継続的・自立的な活動に取り組んでいくのかについて記載してください。</p> <p>前回の事業で継続して使用できる備品を用意することができた為、今回の事業費は前回よりも抑えることができた。実績を重ねることで支援者を募り、自立的な運営ができるようにしていく。</p>